

- (一) 調査及統計
- (二) 圖書ノ保存及刊行

調整部

一 資金課

- (一) 資金計畫
- (二) 臨時資金調整法
- (三) 會社經理統制令

二 指導課

- (一) 中小商工業一般
- (二) 轉廢業對策

三 管理課

- (一) 代用品及資源回收ニ關スル綜合事務
- (二) 規格統一及製品單純化

三科學的管理

四監查課

(一)財務管理

(二)原價計算

貿易局機構改革案

官房總務課

庶務、法令及例規ノ審議、貿易行政上諸般ノ調査、税關ニ關スル事項、他ノ部課ニ屬セザル貿易上ノ團體

一 企畫部

一 計畫課 一 貿易ニ關スル綜合計畫、貿易行政ノ連絡調整、輸出入資金ニ關スル總括的事務、情報、統計、業態調査

長官

一 施設課 一 商品及組合（會社）ニ關スル事務、貿易金融、輸出産業保持、貿易業ノ再編成、貿易振興施設等

一 東亞部

一 東亞輸出課 一 關、滿、支、輸出調整（爲替關係ヲ含ム）  
一 東亞輸入課 一 關、滿、支、輸入調整（輸入爲替許可ヲ含ム）

第三國部

第三國輸出課—第三國輸出調整（爲替關係ヲ含ム）

第三國輸入課—第三國輸入調整（輸入爲替許可ヲ含ム）

備考 東亞—關、滿、支

第三國—佛印、泰其ノ他ノ第三國

別紙 四

物價廳（假稱）設置要綱

- 一 物價廳ハ内閣ニ之ヲ置ク
- 二 物價廳ニ長官、次長、第一部長及第二部長ヲ置ク
- 三 長官ハ商工大臣ヲ以テ之ニ充ツ
- 四 次長、第一部長及第二部長ハ勅任（專任）トス
- 五 各省ノ價格等ノ形成ニ關スル事務ヲ掌ル課長ハ物價廳書記官ヲ兼任シ物價廳ノ夫々ノ部長ノ指揮監督ヲ受ク
- 六 價格、運送賃、保管料、保險料、賃貸料、加工賃、修繕料其ノ他ノ財産的給付ノ額ノ指定及賃金ノ決定ハ物價廳長官之ヲ爲シ且此等ノ告示ハ長官名ヲ以テ之ヲ爲ス
- 七 價格等ノ額ノ協定ノ認可、最高販賣價格等ノ例外許可、價格等ノ額ノ指示、公定賃金及運賃ノ例外許可並ニ賃金及運賃ノ協定ノ認可等ノ事務ハ主務大臣之ヲ行フ但シ專案ノ重要ナルモノニ付テハ物價廳

ニ合議ス

ハ物價對策審議會ハ之ヲ存置シ價格形成中央委員會及質金委員會ハ之ヲ廢止ス  
九物價廳ニ參與ヲ置ク

十參與ハ各省次官及學識經驗アル者トス

十一企畫院第五部ノ物價ニ關スル事務ハ物價廳ニ移管ス

十二現在ノ物價局ヲ廢止シ商工省ノ内局トシテ物價局ヲ設ク

物價局ニハ總務課、料金課、化學課、機械金屬課及纖維課(假稱)ノ五課ヲ置ク

物價廳第一部ハ庶務、會計、人事、文書、調査、企畫等ニ關スル事

務ノ外購買力吸收、勞銀、運賃ニ關スル事務ヲ掌ル

物價廳第二部ハ法令ノ立案審議及解釋、價格等統制令等ノ實施、各

省ノ連絡調整ニ關スル事務ノ外化學品、被破金屬、纖維、農林畜水

產物、食料品及農林畜水產業專用物品ノ價格形成並ニ地代家賃、修

繕料等ニ關スル事務ヲ掌ル

物價行政ノ物資ノ生産及配給ニ關スル行政トノ不可分性ニ鑑ミ物價

廳次長及第二部長ハ商工省ヨリ出ス

産業行政下人員行政ノ緊密化ニ關スル件  
一、人員ノ需給調整ニ關スル事務ハ左記ニ依リ行フ

記

1、企畫院ニ於テ物動計畫及生産擴充計畫ニ即應セル毎年度ノ人員需給基本計畫ヲ定ム

右決定ノ爲各省ヨリ人員ノ供給見込數及需要數ヲ提出ス  
2、右一般計畫ニ基ク各部門（A B、工鐵業、土建等）内ノ割當ハ

各主務大臣之ヲ定ムルコト從テ工鐵關係部門ノ工場鐵山別割當ハ商工大臣之ヲ決定ス

3、人員需給調整計畫ヲ實行ハ厚生省之ニ當ル

4、現在ノ厚生省労働局及職業局ヲ合體シテ同省ノ外局（假稱「人員局」トナシ其ノ機能ヲ強化ス

5、人員局ニ對シ商工省ヨリ部長、課長、事務官若干人ヲ差出ス

四 人員局長官ハ工鑛業ニ關スル人員ノ配分、勞務管理作業能率ノ増進  
及技能者養成ニ關スル事務ニ付テハ厚生大臣及商工大臣ノ指揮監督  
ヲ受ク

五 現在ノ國民職業指導所ノ機能ヲ擴充スル外全國ヲ六ブロック（北海  
道、東北、關東、中部、中國、近國九州）ニ分チ各ブロック毎ニ地  
方人員調整局ヲ設ケブロック内ノ人員需給調整事務ニ當ラシム  
（道府縣ハ人員ノ需給調整事務ハ掌ラザルモノトス）



秘

許可認可事務簡捷化實施案要領 月 日提出 商工省

一 法律改正ヲ要スルモノ

番號	許可、認可及承認事項	關係條項	簡捷化方針	實施期日	備考
1	設備ノ新設又ハ増設ノ認可ヲ受ケタル場合ノ免税ノ認可	輕金屬製造事業法第七條（則第四條）	廢止		
2	株金全額拂込前増資ノ認可	同法第十二條（則第十條）	削除		
3	設備ノ新設又ハ増設ノ認可ヲ受ケタル場合ノ免税ノ認可	有機合成事業法第七條（則第四條）	廢止		
4	株金全額拂込前増資ノ認可	自動車製造事業法第九條（則第十一條）	削除		

<p>5 設備ノ新設又ハ増設ノ認可ヲ受ケタル場合ノ免稅ノ認可</p>	<p>6 設備ノ新設又ハ増設ノ認可ヲ受ケタル場合ノ償却金補給ノ認可</p>	<p>7 株金全額拂込前増資ノ認可</p>	<p>8 設備新設又ハ増設ノ認可ヲ受ケタル場合ノ免稅ノ認可</p>	<p>9 百貨店ノ店舗外小賣ノ許可</p>
<p>工作機械製造事業法第七條（則第六條）</p>	<p>同法第十條（則第七條）</p>	<p>人造石油製造事業法第十一條（則第十三條） 重要機械製造事業法第四條</p>	<p>百貨店法第四條（則第八條）</p>	<p>百貨店法第四條（則第八條）</p>
<p>廢止</p>	<p>・</p>	<p>削除</p>	<p>廢止</p>	<p>讓 地方長官委</p>

14                      13                      12                      11                      10

有價證券業者ノ本店其  
ノ他ノ營業所ノ位置變  
更ノ認可

有價證券業取組法  
第九條（則第十七  
條）

同一府縣内ニ  
於ケル位置變  
更ハ地方長官  
委讓

日本産金振興株式會社  
ノ支店又ハ出張所設置  
ノ認可

日本産金振興株式  
會社法第二條

事前届出

帝國鑛業開發株式會社  
ノ支店又ハ出張所設置  
ノ認可

帝國鑛業開發株式  
會社法第二條

事前届出

工業組合ニ於テ員外者  
ヲ理事監事ニ選任スル  
場合ノ認可

工業組合法第二十  
條（則第七條第二  
項）

廢止

工業組合ノ統制規程ノ  
設定及變更ノ許可

同法第六條ノ二（  
則第五條ノ四）

工業組合法第  
八條ノ命令ア  
リタルトキ及  
第二十八條ノ  
三ノ組合ヲ除  
キ

19

18

17

16

15

検査員ノ選任及解任ノ認可

同法第二十五條（則第十六條）

選任ノミ事前届出

検査員服務規程ノ認可

同法第二十六條（則第十六條）

事前届出

工業組合聯合會ニ於テ員外者ヨリ理事監事ノ選任ノ認可

同法第三十二條

廢止

商業組合ニ於テ員外者ヲ理事監事ニ選任スル場合ノ認可

商業組合法第二十一條（則第十條二項）

統制規程ノ設定及變更ノ許可

同法第七條（則第八條）

商業組合法第九條ノ命令及リタルモノノ除外  
第三十七條ノ除外  
第三十七條ノ除外  
事前届出

20

25

24

23

22

21

20

商業組合聯合會ニ於テ  
員外者ヨリノ理事監事  
ノ選任ノ認可

同法第三十一條

廢止

貿易組合ニ於テ員外者  
ヲ理事監事ニ選任スル  
場合ノ認可

貿易組合法第三十  
三條（則第十六條）

検査員ノ選任及解任ノ  
認可

同法第四十條  
（則第二十六條）

選任ノミ事前  
届出

検査員ノ服務規程ノ  
認可

同法第四十一條（  
則第二十七條）

事前届出

統制規程ノ設定及變更  
ノ許可

同法第十五條（則  
第十條）

貿易組合法第  
十八條ノ命令  
アリタルトキ  
及第四十六條  
ノ組合ヲ除キ  
事前届出

貿易組合聯合會ニ於テ  
員外者ヨリノ理事監事  
ノ選任ノ認可

同法第七十條（則  
第四十二條）

廢止

重要輸出品取締法ニ依  
ル検査機關ノ検査員ノ選  
任及解任ノ認可

重要輸出品取締法  
第五條第二項  
第二十條  
第二十三條

選任ノミ事前  
届出

33	32	31	30	29	28	27
急迫危険防止ノ爲他人土地立入又ハ使用ノ許可	試掘ニ依リ得タル鑛產物ノ處分ノ認可	鑛區訂正ノ出願ノ許可	隣接鑛區ヘノ掘進増區出願ノ許可	採掘權ノ出願ノ許可	アルコール混入計畫設定及變更ノ認可	検査員ノ服務規程ノ設定及變更ノ認可
同法第五十四條（則第六十條）	同法第四十八條（則第五十六條）	同法第三十六條第二項	同法第三十六條	鑛業法第二十一條（則第二十九條）	揮發油及アルコール混用法第二條（則第七條則第八條）	同法第五條第四項（則第二十條）
〃	廢止	〃	〃	鑛山監督局長ニ委譲	削除	事前届出

鑛業法第三十二條  
 第三十六條  
 第六十條  
 依項第  
 コニテラモ得  
 正スル

勅令改正ヲ要スルモノ

番號

許可、認可及承認事項

關係條項

簡捷化方針

實施期日

備考

34

指定容量未滿ノ石油タンクニ石油ヲ保有スルコトノ許可

石油業法施行令第七條  
(則第二十條一項)

廢止

35

揮發油ノ製造輸入又ハ移入ヲ業トスル者其ノ工場若ハ貯油所ヨリ搬出シ又ハ工場貯油所ニテ使用シ若ハ引渡ス揮發油ノ總數量ガ常時百キロリットルニ達セザル場合ノ混入免除ノ許可

揮發油及アルコール混用法施行令第三條(則第六條)

36

水道事業者水量「メートル」ニシテ檢定ノ有效期間内ニ在ルモノヲ修覆シタル場合ノ檢定免除ノ許可

度量衡法施行令第九條第一項第四號

地方長官へ委譲

37	社員初任基本給料ノ制限	會社經理統制令第十八條	事前届出
38	社員昇給ノ許可	會社經理統制令第十九條	"
39	社員手當準則ノ承認又ハ許可	令第二十條	"
40	社員賞與支給ノ許可、經費經理ノ許可又ハ支給方法ノ承認	令第二十一條	"
41	社員退職金準則ノ承認又ハ許可	令第二十二條	"
42	役員雜給與、社員手當又ハ社員退職金ノ準則變更ノ許可	令第二十五條	"



役員雜給與支給ノ許可

令第十六條

事前届出

役員退職金支給ノ不要許可限度

令第十四條第一號

限度ヲ現行ノ倍額トス

特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル會社、大正十五年勅令第九號ニ基ク會社ノ利益金處分ノ認可及役員給與ノ認可並ニ輕金屬製造事業法第二十二條ノ會社及工作機械製造事業法第十條ノ會社ノ利益金處分ノ認可ハ右各法ニ基ク認可ヲ以テ經理統制令ノ認可ニ代フルコト

經理統制令中ニ新條文ヲ置ク

各省令改正ヲ要スルモノ

番號	許可、認可及承認事項	關係條項	簡捷化方針	實施期日	備考
46	事業開始期間延長ノ許可	輕金屬製造事業法 第五條	處理期限ノ設 定		
47	免稅物品ノ用途變更ノ認 可	輕金屬製造事業法 施行規則第七條			
48	免稅物品ノ供用期間延長 許可	同 則 第八條			
49	事業開始期間延長ノ許可	有機合成事業法第 五條			
50	免稅物品用途變更ノ認可	有機合成事業法施 行規則第七條			
51	免稅物品ノ供用期間延長 ノ認可	同 則 第八條			

58	57	56	55	54	53	52
免稅物品用途變更ノ認可	可 事業開始期間ノ延長ノ許	免稅物品供用期間延長ノ認可	可 免稅物品ノ用途變更ノ認可	可 事業開始期間ノ延長ノ許	可 免稅物品ノ用途變更ノ認可	可 事業開始期間ノ延長ノ許
製鐵事業法施行規則第十四條	製鐵事業法第四條	同 則 第十一條	工作機械製造事業法施行規則第十條	工作機械製造事業法第五條	自動車製造事業法施行規則第九條	自動車製造事業法第五條
〃	〃	〃	〃	〃	〃	處理期限ノ設定

<p>59 免稅物品供用期間延長ノ認可</p>	<p>60 石油精製業者又ハ輸入業者ヨリ商工大臣ニ提出スベキ許可、認可ノ申請書ノ地方長官經由</p>	<p>61 事業許可申請書記載事項ノ變更許可</p>	<p>62 事業許可申請書記載事項ノ變更許可</p>
<p>製鐵事業法施行令 第二十二條</p>	<p>石油業法施行規則 第二十五條</p>	<p>石油業法施行規則 第三條</p>	<p>人造石油製造事業法施行規則第三條</p>
<p>處理期限ノ設定</p>	<p>削除</p>	<p>工場ノ名稱、原料油ノ種類及産地、事業開始ノ豫定時期ノ變更ハ事前届出トス</p>	<p>工場ノ名稱ノ變更ハ事前届出トス</p>

68	67	66	65	64	63
免許狀ノ再下附又ハ免許 狀更正ノ許可	度量衡器製作者、修覆者 又ハ販賣者ノ相續人ノ營 業承繼ノ許可	人造石油會社ヨリ商工大 臣ニ提出スベキ許可認可 ノ申請書ノ地方長官經由	免稅物品供用期間延長ノ 許可	免稅物品用途變更ノ認可	事業開始期間ノ延長ノ許 可
同 則 第十三條	度量衡法施行規則 第十一條	人造石油製造事業 法施行規則第二十 九條	人造石油製造事業 法施行令第八條	人造石油製造事業 法施行規則第九條	人造石油製造事業 法第四條
〃	地方長官委談	削 除	〃	〃	處理期限ノ設 定

<p>73 支店其ノ他ノ營業所又ハ代理店ニ於ケル業務ヲ六月以上休止シタル場合、免許失効ノ除外ノ承認</p>	<p>72 支店、營業所、代理店ノ設置又ハ本店其ノ他ノ營業所ノ位置、變更ニ付認可ヲ受ケタル後六月以内ニ實行セザル場合ノ認可失効ノ除外ノ承認</p>	<p>71 供託營業保證金ノ下戻ノ承認</p>	<p>70 六月以上ノ營業開始遲延又ハ營業休止ノ場合ノ免許失効ノ除外ノ認可</p>	<p>69 閉店時刻ノ繰延ノ許可</p>
<p>同 則第十八條</p>	<p>同 則第十八條</p>	<p>同 則第十五條</p>	<p>有價證券業法施行規則第八條</p>	<p>百貨店法施行規則第九條</p>
				<p>地方長官 委讓</p>

79	78	77	76	75	74
探鑛獎勵金又ハ選鑛場若 ハ製鍊場ノ設置獎勵金交 付ノ指令アリタル作業又 ハ工事ノ承継承認	免稅物品供用期間ノ延長 ノ認可	免稅物品ノ用途變更ノ認 可	金製鍊業ノ讓渡、會社ノ 合併若ハ解散ノ決議若ハ 總社員ノ同意ノ認可	事業開始期間ノ延長許可	業務報告書ノ提出延期ノ 承認
產金獎勵規則第十 四條	產金法施行令第十 三條	同 則第二十一條	產金法第四條 同則 第三條 第六條 第七條 第八條	瓦斯事業法第四條	同 則第二十四條
		處理期限ノ設 定	鑛山監督局長 經由廢止	處理期限ノ設 定	

80

選鑛場設置獎勵金交付ノ  
指令ヲ受ケタル者ノ鑛業  
權移轉ニ基ク承繼人ノ選  
鑛場工事繼續ノ承認

選鑛場設置獎勵規  
則第十一條

處理期限ノ設  
定

81

選鑛場設置獎勵金ノ交付  
ヲ受ケ設置シタル選鑛場  
讓渡ノ承認

同 則第十四條

82

探鑛獎勵金交付ノ指令ヲ  
受ケタル者ノ鑛業權移轉  
ニ基ク承繼人ノ探鑛作業  
繼續ノ承認

探鑛獎勵金交付規  
則第十一條

83

鑛山機械化獎勵金交付ノ  
指令アリタル者ノ機械ノ  
購入廢止ノ事前承認

鑛山機械化獎勵規  
則第七條

事前届出

84

鑛山機械化獎勵金交付ノ  
指令ヲ受ケタル者ノ鑛業  
權又ハ砂石權ノ移轉ニ基  
ク承繼人ノ機械化繼續ノ  
承認

同 則 第八條

處理期限ノ設  
定



85	86	87	88	89
鐵山機械化獎勵金ノ交付 ノ受ケテ購入シタル機械 ノ譲渡又ハ移轉ノ承認	工作機械試作獎勵金交付 ノ指令ヲ受ケタル者ノ試 作ノ承認ノ承認	試作費ヲ以テ設置シタル 試作設備ノ譲渡又ハ目的 以外ノ使用ノ承認	重要機械製造研究獎勵金 交付ノ指令アリタル者ノ 研究ニ關スル計畫ノ變更 ノ承認	重要機械製造研究獎勵金 交付ノ指令アリタル者ノ 研究ノ中止又ハ廢止ノ承 認
同 則 第十一條	工作機械試作獎勵 金交付規則第七條	同 則 第九條	重要機械製造研究 獎勵金交付規則第 四條	同 則 第七條
/	/	/	地方長官經由 廢止	/

94	93	92	91	90
アルミニウム製造奨励金 交付ノ指令ヲ受ケタル者 ノアルミナ製造事業承継 ノ承認	研究費ヲ以テ設備シタル 研究設備ノ譲渡又ハ目的 以外ノ使用ノ承認	輕金屬製造研究奨励金交 付ノ指令アリタル者ノ研 究ノ承認ノ承認	研究費ヲ以テ設備シタル 研究設備ノ譲渡又ハ目的 以外ノ使用ニ對スル承認	重要機械製造研究奨励金 交付ヲ受ケタル研究承継 ノ承認
アルミニウム製造 奨励金交付規則第 十二條	同 則 第九條	輕金屬製造研究奨 励金交付規則第七 條	同 則 第九條	同 則 第七條
		處理期限ノ設 定		
				處理期限ノ設 定

95

石油試掘助成金交付ノ指  
令ヲ受ケタル者ノ鑽業權  
移轉ニ基ク承繼人ノ試掘  
承繼ノ認可

石油資源開發法施  
行規則第十三條

處理期限ノ設  
定

96

石炭新坑開發助成金交付  
ノ指令ヲ受ケタル者ノ鑽  
業權ノ移轉ニ基ク承繼人  
ノ開發作業承繼ノ承認

石炭山新坑開發助  
成金交付規則第十  
三條

97

長サ十二碼半以上ノ輸出  
絹織物精練業ノ專業開始  
期間ノ延長ノ許可

輸出絹織物取締法  
施行規則第三十八  
條

98

精練業者ノ精練工場ノ工  
事及其ノ變更ノ許可

同 則第三十九條

輸出絹織物取  
締法施行規則  
第三十七條ノ  
精練業ノ許可  
申請下合體ノ  
整理又

101

100

99

長サ十二碼半以上ノ輸出  
絹織物ノ染色業者ノ工場  
設備ノ許可

重要輸出品取締法ニ依ル  
検査機關ノ検査場外検査  
ノ認可

検査規程ノ變更ノ認可

同 則第四十八條

廢止

重要輸出品取締  
法施行規則第八  
條

事前届出

同 則 第七條



各省トノ協議事項

協議ヲ爲スベキ事項

根據法令又ハ覺書

協議先

整理ニ關スル方針

一、特殊會社法（令）

（一）日本製鐵株式會社法（令）

1、商工大臣日鐵ニ對シ經理

ニ影響ヲ及ボスベキ事項  
ニ付公益上必要ナル命令  
ヲ爲サントスルトキ

令第四條

大藏大臣

廢止

2、日鐵ノ第二回以後ノ株金  
拂込又ハ社債募集ノ許  
可

令第五條

〃

3、資本ノ増減其ノ他重要  
事項ニ關スル定款ノ變  
更利益金ノ處分、合併  
若ハ解散ノ決議又ハ現  
出資ノ決議ノ認可

令第五條

〃

資本ノ増減ニ關シテ  
定款ノ變更、合併、  
解散ノ決議、出資ノ  
決定ノ認可廢止

4、主務大臣ノ發スル公益上  
ノ命令ニヨリ保持ヲ命  
ラレタル鐵礦其ノ他ノ  
鐵原料ニシテ命令ヲ以  
テ命命ニシテ命命ニシ  
定ムルモノノ取得ニ要  
タル資金ノ算定方法及  
息ノ率ノ決定

令第五條

〃

5、日鐵ノ役員ノ選任又ハ解任ノ決議ノ許可

昭和八年九月十日  
昭和本國鐵株  
四日法施行ニ  
式會社協定  
事件ヲ關係スル件

大藏大臣

廢止

6、日鐵ノ重要財産讓渡又ハ擔保ノ認可

7、日鐵ノ事業ノ廢止又ハ休止ノ認可

休止、場合廢止

8、日鐵ノ附帶業務ノ認可

廢止

9、日鐵ノ事業計畫、決算及重要ナル投資ニ關スル認可

10、日鐵ノ役員ノ報酬手當又ハ退職手當ノ從業者給與規定ノ制定ノ認可

11、日鐵法施行令第二條第一項第一號及第二號ノ命令制定

12、日鐵法第九條ノ規定ニ基ク、海軍大臣ノ命令ニ陸軍大臣ノ命令ニ協同スル場ニ之ニ應ゼントスルトキ

廢止

- 13 日鐵ノ合併又ハ解散ノ決議ノ認可
- 14 日鐵ノ爲ス製鐵事業讓受ノ認可
- 15 日鐵ノ重要ナル設備ノ改廢擴張ノ認可
- 16 日鐵ノ取締役會長、社長等ノ役員ノ選任又ハ解任ノ決議ノ認可
- 17 日鐵ノ重要財産讓渡又ハ擔保、事業ノ廢止又ハ休止ニシテ軍事上關係アル事項ニ付認可
- (二) 日本産金振興株式會社法(令)
- 1 日本産金ニ對シ産金事業ノ振興上必要ナル命令ヲ發シタルニ因リ生ジタル損失決定ノ基準及其ノ他損失補償ニ關シ必要ナル事項ノ決定
- 2 日本産金ノ増資、存立期間ノ延長及專業計畫ノ認可
- 3 日本産金ノ役員ノ任命

令第三條第二項

令第一條第二項

朝鮮總督

陸海軍大臣

4、日本産金ノ重要ナル事項ニ關スル決定ノ變更合併又ハ解散ノ決議ノ認可

5、日本産金ノ決議又ハ役員ノ行為ガ法令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル場合ニ於テ朝鮮ニ於ケル業務ニ關スル決議ノ取消又ハ役員ノ解任

6、日本産金ノ支店又ハ出張所設置ノ認可役員兼職ノ認可兼職ノ可殖業務ノ一部ヲ鮮銀、朝鮮殖産、東拓ニ代行セムル場合ノ認可

7、兼業ノ認可ヲ爲ス場合ソノ事業ガ朝鮮ニ於テ營ムモノナルトキ

(三)帝國鑛業開發株式會社法

1、帝國鑛業開發株式會社法第二十四條第一項ノ規定ニ依リ重要ノ事項ノ承認上必要ナル命令ヲ爲シタルニ依リ生シタル損失補償ニ關スル勅令ノ制定

令第四條

令第四條

昭和四年三月六日  
昭案ノ閣議提出  
ノ際ノ兩次官覺書

大藏大臣

大藏大臣及朝鮮總督

大藏大臣

1 支店又ハ出張所設置ノ認可ハ届出制トシテ廢止シ  
2 其ノ他廢止

大藏大臣ニ付テハ廢止



2、帝國銀行開設支店ノ可  
 張所ノ間延長ノ部ヲ與銀業代  
 存立期ノ業務ノ一部ヲ與銀業代  
 認可シムルコトノ認可ヲ與銀業代  
 理セシムルコトノ認可ヲ與銀業代  
 開發債發行ノ認可ヲ與銀業代  
 ノ認可分業計及解散ノ議  
 ノ認可分業計及解散ノ議  
 3、帝國銀行開設支店ノ可  
 監督上ノ影響ヲ及ボスベキモノ  
 限ルニ及増産上ノ必要ナル可令  
 ヲ爲サントスルトキ  
 4、銀行發債ノ元本ノ償還及  
 利息ノ支拂ノ保證  
 5、役員ノ任命、法令違反ノ場合  
 ニ於ケル決議ノ取消及役員ノ  
 解任、設立委員ノ任命及解任  
 6、役員ノ報酬、手當、賞與、退  
 職手當、報謝、勞金又ハ交際費ノ  
 額ノ決定並ニ之ガ變更ニ付承  
 認ヲ爲サントスルトキ

〃 〃 〃 〃

1. 支店出張所設置  
 2. 業務ノ一部ヲ與銀業代  
 3. 銀行ノ代理ノ認可ヲ與銀業代  
 4. 兼業ノ認可ヲ與銀業代  
 5. 定業ノ認可ヲ與銀業代  
 6. 事業計及解散ノ議  
 廢止

廢止

(四)帝國燃料興業株式會社法

- 1、帝燃ノ役員ノ報酬、手當又ハ退職手當ニ付認可又ハ命令ヲハ爲ス場合
- 2、帝燃法第十五條ノ規定ニ依リ燃料興業債券ノ元利支拂ヲ保證セントスルトキ
- 3、帝燃ノ増資ノ認可、存立期間延長ノ認可
- 4、附帶事業ノ認可、燃料興業債券發行ノ認可、借入金ノ認可、定款ノ變更、利益金ノ處分、合併及解散ノ決議ノ認可
- 5、事業計覽設定及變更ノ認可
- 6、帝燃ニ對スル公益上必要ナル命令

昭和十三年八月四日  
昭帝國燃料興業株式會社法ノ運用ニ關スル兩次官覺

大 藏 省

廢 止

附帶事業ノ認可及定款變更ノ認可ハ廢止

廢 止

（五）石炭配給統制法

一、石炭配給統制法施行ニ關スル勅令ノ制定

昭和十五年四月二十四日  
石炭配給統制法施行ニ關スル兩次官憲書

大藏大臣

2、日本石炭ノ増資ノ認可、附帶事業及必要事業ノ認可、定款變更利益金ノ處分、合併及解散ノ決議ノ認可、事業計畫ノ認可

附帶事業及必要事業ノ認可、定款變更並ニ事業計畫ノ認可ニ付テハ廢止

3、設立ノ際ノ定款ノ認可

廢止

4、日本石炭ニ對シ公益上必要ナル命令ヲ爲ス場合ソノ命令ガ會社ノ經理ニ影響ヲ及ボスベキトキ

5、社債前借及一年以上ノ借入ヲ認可事項ト爲シ且之ガ認可ヲ爲サントスルトキ  
6、役員ノ報酬手當、賞與ノ額ノ認可

廢止

7. 役員ノ任命及買入又ハ販入  
價格ノ認可

8. 法令違反役員ノ解任

(六) 帝國石油株式會社法

1. 帝國石油ノ増資ノ認可

2. 營業ノ認可

3. 帝國石油債券發行ノ認可

4. 帝國石油債券ノ元本償還及  
利息支拂ノ保證

5. 帝國石油ノ借入金ノ認可

6. 定款ノ變更利益金處分合併  
及解散ノ決議ノ認可

昭和十六年四月  
帝國石油會社法施行  
ニ關スル兩次官憲書

大臣大臣三連  
給付

大臣

廢止

廢止

定款ノ變更  
廢止

7. 事業計畫ノ認可

8. 公益上又ハ軍事上必要ナル命令ニシテ會社ノ經理ニ影響ヲ及ボスモノナルトキ

9. 役員ノ報酬及手當ノ認可

10. 帝國石油會社ノ帝國外ニ於テ  
ル事業ニ對シ公益上必要ナル命令ヲ爲ス場合ニ於テ  
一般の拓殖事業ニ關係アル  
重要事項

11. 帝國石油ノ帝國外ノ事業ニ  
關シ必要ナル事業 兼營ノ  
認可及事業計畫ノ認可ヲ爲  
ス場合一般の拓殖事業ニ關  
係アル重要事項

閣議決定

拓務大臣

廢止

(七) 大正十五年勅令第九號

(北樺太石油及石炭會社)

1、事業計畫ノ設定及變更ノ認可

2、事業計畫ノ變更命令及試掘命令

3、利益金處分ノ認可

大正十五年勅令第九號 前議

海軍大臣

二 事業法

(一) 輕金屬製造事業法 (令)

1、商工大臣輕金屬製造事業法

又ハ之ニ基キテ發スル命令  
ニ依リ命令又ハ處分ヲ爲サ  
ントスル場合ニ當該命令及  
ハ處分ガ專事上ニ影響ヲ及  
ボスベキモノナルトキ

2、受命會社ノ指定及取消

令第十三條

陸軍大臣又ハ  
海軍大臣

昭和十三年九月二十  
二日北樺太ニ於ケル  
利權確保ニ關スル  
閣議稟請ノ際ノ兩  
官覺書

大藏大臣

令第十四條二項

朝鮮總督又ハ  
臺灣總督







11. 輕金法施行ノ際臨時會金調  
整法ニ依リ許可濟ノ工場ニ  
付事業ノ許可又ハ設備ノ増  
設又ハ變更ノ許可ヲ爲サ  
トスルトキ

(二) 石油業法 (令)

1. 商工大臣石油ノ販賣價格ノ  
變更他石油供給ノ調節必要  
ナル命ヲ爲サントスル場  
合及設備ノ擴張又ハ改良  
命ゼン所ヲ指定トス  
保有人ノ命ヲ及ボスベキ  
軍事ナルト影響ヲ及ボス  
モノ事ナルトキ

2. 石油業法施行令第八條ノ規  
定ニ依リ石油ヲ購入セ  
ントスルトキ

3. 石油業法施行令第三條ノ規  
定ニ依リ石油精製又ハ石  
油輸入業ノ許可ヲ爲サザ  
ル場合

令第九條第二項

石油業法ニ關スル覺  
書

陸軍大臣又ハ  
海軍大臣

陸軍大臣及  
海軍大臣

4. 主要ナル石油精製業者及  
輸入業者ノ事業ノ廢止休止  
又ハ譲渡、合併ノ許可

5. 石油保有補助金交付規則  
第三條ノ補助金額ノ決定

(三) 人造石油製造事業法(令)

1. 商工大臣入石會社ニ對シ  
人造石油ノ販賣價格ノ變  
更其ノ他販賣ニ關スル命  
令ヲ爲サントスル場合及  
設備ノ擴張若ハ改良又ハ  
製造方法ノ改善ヲ命ゼン  
トスル場合ニソノ命令ガ  
軍事上ニ影響ヲ及ボスベ  
キモノナルトキ

昭和十一年七月十三  
日補助金ノ額ノ決定ニ  
關スル申合事項

令第十條

大藏大臣  
廢止

陸軍大臣又ハ  
海軍大臣

2. 人造石油會社ニ對シテ法第十六條ノ規定ニヨリ人造石油ノ販賣價格ノ變更其ノ他販賣ニ關シ必要ナル事項ヲ命ジ又ハ設備ノ擴張改良又ハ製造方法ノ改善ヲ命ズル場合ニ於テソノ命令ガ會社ノ經理ニ影響ヲ及ボスベキモノナルトキ

3. 人石令第九條第一項ノ規定ニ依リ獎勵金ヲ交付スベキ人造石油ヲ定ムル命令ヲ定メントスルトキ及同令第九條第二項ノ規定ニ依リ獎勵金ノ額ヲ定メントスルトキ

4. 人造石油製造專業法第九條ノ規定ニ依リ人造石油ノ價格ノ決定

昭和十三年一月十五日  
日人石施行令ノ制定  
ノ際ノ瞭解事項

昭和十六年三月一日  
人石法ノ修正案ニ關  
スル覺書

大藏大臣 廣 止

大藏大臣 廣 止

四 自動車製造事業法

1. 商工大臣自動車製造事業法  
第三條ノ規定ニ依リ事業ノ  
許可ヲ爲スニ付自動車製造  
事業委員會ニ附議セントス  
ルトキ

2. 商工大臣第三條ノ許可申請  
ヲ拒否セントスルトキ

3. 商工大臣自動車製造事業ノ  
譲渡若ハ廢止ノ許可ヲ爲シ  
又ハ自動車製造會社ノ合併  
若ハ解散ノ決議ノ認可ヲ爲  
サントスル場合ニ於テ其ノ  
許可又ハ認可ガ自動車製造  
會社タル資格ノ得喪ニ關ス  
ルモノナルトキ

4. 商工大臣自動車製造事業法  
ノ改廢ヲ爲サントスルトキ

昭和十一年七月八日  
商工陸軍兩省間ノ連絡

陸軍大臣

田瓦斯事業法（令）

1、瓦斯事業ノ許可、事業ノ譲渡ノ許可、合併、解散ノ許可、事業許可ノ取消処分、供給區域ノ變更命令

2、供給區域ノ變更許可

3、市町村ト瓦斯事業者トノ間ニ存スル事業經營ニ關スル協定ニ關係アル事項ニ付瓦斯料金其ノ他供給條件ニ關シ必要ナル認可又ハ命令ヲ發スル場合、増資ヲ認可シ又ハ第十七條ノ二ノ規定ニ依ル裁定ヲ爲サントスルトキ

4、市町村ノ營ム瓦斯事業ニ付瓦斯料金其ノ他供給條件ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サントスルトキ

令 第四條

内務大臣

事業主體ガ市町村ニ非サル場合廢止

~~市町村ト瓦斯事業者トノ間ニ存スル事業經營ニ關スル協定ニ關係アル事項ニ付瓦斯料金其ノ他供給條件ニ關シ必要ナル認可又ハ命令ヲ發スル場合、増資ヲ認可シ又ハ第十七條ノ二ノ規定ニ依ル裁定ヲ爲サントスルトキ~~

5、災害ノ豫防又ハ除却ノ爲瓦斯工作物ニ關シ命令處分ヲ爲ストキ

6、事業ノ廢止又ハ休止ノ許可

(六) 有機合成事業法

1、有機合成事業會社ニ對シ有機合成品ノ製造又ハ販賣ニ關シ需給ノ圓滑又ハ價格ノ公正ヲ圖ル爲必要ナル命令ヲ爲ス場合及會社ニ對シ設備ノ擴張改良製造方法ノ變更ヲ命ズル場合ニ當該命令ガ軍事上ニ影響スベキモノナルトキ

2、免稅ヲ受クベキ有機合成事業ノ許可

有機合成事業  
ニ係ル免稅  
規定ノ運用  
ニ關スル件

有機令第十九  
條

主稅局

陸軍大臣又ハ  
海軍大臣

事業主體ガ市町村  
ニ非ザル場合廢止

免稅ノ前提タル  
シテ廢止スルコト

三、輸出入等ニ關スル臨時措置ニ關スル

法律ニ基ク省令

(一)木造建物建築統制規則

木造建物建築統制規則案及施行ニ關スル通牒及告示案

(二)石油配給統制規則

第八條ノ規定ニ依リ石油ノ需給ノ調整上必要アル場合石油ノ販賣業者ニ必要ナル命令ヲ爲ス場合ニ於テ農林水産業用石油ニ關スル事項

(三)輸出品及輸出品用原材料配給統制規則

1、特殊保稅工場ノ製品ニ付買取ヲ爲ス統制機關ノ業務規程ノ制定及變更

昭和十四年十一月二日  
院決定

農林省

昭和十四年九月二十日  
農林水産業用石油ノ配給ニ關スル覺書

農林省

昭和十三年九月  
輸出品及輸出品用原材料配給統制規則ニ關スル件

大藏大臣

廢止

2) 配給機關ノ業務規程ノ制定又ハ變更  
四 國家總動員法ニ基ク勅令

(一) 貿易統制令

- 1、貿易統制令第五條ノ規定ニ依リ  
損失範圍ヲ定メントスルトキ
- 2、農林省所管物資ニシテ其ノ輸出入ニ關スル事務ガ商工大臣ニ屬スルモノニ付商工大臣ガ貿易統制令  
第二條又ハ第三條ノ規定ニ依リ命  
令ヲ爲サントスルトキ

昭和十六年五月  
一日貿易統制令  
案閣議提出ノ  
際ノ覺書  
昭和十六年六  
月十日貿易統  
制令施行ニ關  
スル諒解事項

六藏大臣

農林大臣

廢止



五重要礦物増産法

1. 豫算又ハ豫算外國庫補負擔トナル  
ベキ契約ニ關スル件ノ成立ナキ場  
合ニ於テ商工大臣重要礦物増産法  
第十六條第一項ノ規定ニ依リ礦業  
權者ニ對シ事業設備ノ新設、擴張  
若ハ改良ヲ命ジ又ハ作業方法若ハ  
作業用品ノ規格ニ關シ必要ナル事  
項ヲ命ズルトキ

2. 重要礦物増産法第十六條第一項ノ  
規定ニ依ル命令ニ依リ生ジタル損  
失補償ニ關スル勅令ノ制定

六臨時資金調整法

1. 事業ニ屬スル設備、新設、擴張又  
ハ改良ノ爲ニ使用セラルル一口五  
萬圓以上ノ借入金ノ認可ヲ爲サン  
トスルトキ

昭和十三年二

大藏大臣

月十日  
重要礦物増産  
法案閣議提出  
ニ際シテ諒解  
事項

令第三條第二

大藏省

2、額面總額五萬圓以上ノ有價證券ノ發行ノ認可又ハ許可ヲ爲サントスルトキ

3、有價證券ノ應募、引受又ハ募集ノ取扱ニ付認可セントスルトキ

4、商工大臣資本金二十萬圓以上ノ會社ノ設立ヲ免許セントスルトキ

5、目的トスル事業ノ全部ニ付商工大臣ノ許可又ハ免許ヲ受クベキ會社ヲ新設セントスル場合ニソノ事業ノ許可又ハ免許ヲ與ヘントスルトキ

6、資本金二十萬圓以上ノ會社ノ増資合併又ハ目的變更及資本増加又ハ合併ニ因リ資本金二十萬圓以上ノ會社トスルベキ場合ニ於ケル資本増加又ハ合併ヲ認可又ハ許可セントスルトキ

令第四條第一項

令第五條

資本金二十萬圓以上ノ會社ニ付第二  
回以後ノ株金ノ拂込及他人ヲシテ引  
受又ハ券集ノ取扱ヲ爲サシメズシテ  
社債ヲ券集スルコトヲ認可セントス  
ルトキ

令第六條第二項

五萬圓以上ノ事業設備ノ新設、擴張  
又ハ改良ニ付許可セントスルトキ

令第六條ノ二

七  
雜

(一) 生命保險會社ノ監督ニ關スル事務  
ニシテ財産選用ニ關スル事項及保  
險料率ニ關スル事項ニ關スルモ、  
ノ基本的事項

昭和十三年  
勅令第二十九  
號第一條

商工大臣  
大藏大臣  
厚生大臣協定

(二) 損害保險國營再保險ニ附  
スルコトヲ得ベキ船舶保險ニ關スル  
ルモノニ付保險ノ目的ノ指定、再  
保險料其ノ他  
再保險ニ關スル命令、保險料其他  
元受保險ニ關スル命令ヲ爲セント  
スルトキ

昭和十五年三  
月六日損害保  
國營再保險  
法案ニ關スル  
件

逓信大臣

(三) 國立公園内ニ於ケル既設試掘權ノ存  
續期間満了後領業法第三十三條ノ規  
定ニ依リ爲シタル繼願又ハ試掘權存  
續期間中ニ爲シタル採掘出願ノ處理

(四) 轉廢業者資産評價中央委員會ニ附議  
スベキ原案

(五) 日本製鋼原料統制株式會社ノ利益金  
處分ノ認可

昭和十五年十  
二月四日  
鑛山監督局長  
厚生大臣

昭和十六年四  
月九日  
生金庫法ノ施  
行ニ關スル件  
照會ニ對スル  
大藏大臣

昭和十五年七  
月二十日  
鐵用上原料製  
造ノ値上ニ對  
スル損失補償  
ノ措置ニ關ス  
ル覺書  
大藏大臣

廢止

内共同企業株式會社ノ豫算、決算、  
事業計畫、利益金處分、定款變更  
ノ承認、補償契約ノ追加若ハ  
變更、補償會社ノ保有石油處分  
ノ指示

昭和十六年六月  
二十六日共同企  
業株式會社ニ關  
スル覺書

大藏大臣

豫算、決算、  
事業計畫及定款變更  
ノ承認並保有石油處分指示ノ場  
合廢止

新ニ一〇〇〇キロワット以上ノ  
電力ヲ使用スル事業ノ新設擴張  
ノ許 又ハ認可

昭和十四年三月  
二十三日電氣廳  
長官照會

電氣廳

機密

閣甲第一四三

昭和六年四月

昭和六年四月十日

内閣書記官長



内閣書記官長



昭和十六年四月二十一日

内閣官房總務課長

各省次官

警視總監

北海道廳長官

各府縣知事

憲兵司令官

外地總督長官

宛（各通）

五

法制局長官

企畫院總裁

對滿事務局總裁

情報局總裁

興亞院總裁

總力戰研究所長

本月八日地方長官會議ニ於ケル近衛內閣總理大臣訓示別冊依命及送付候

追テ右印刷物ハ「機密」書類ニ有之候條取扱上格別ノ御留意相煩度爲念申添候



機密文書受領證

件名

昭和十六年四月八日  
地方官會館三於元

近衛内閣總理大臣訓示

部	番
部	第
部	部

右受領候也

昭和十六年四月

(官職)

(氏)

名

(印)

内閣官房總務課長殿

(官職氏名押記入捺印、上中送付相勘度)

機密

第一號

昭和十六年四月八日  
地方長官會議ニ於ケル

近衛内閣總理大臣訓示

禁複製

INT 663

338

### 地方長官會議ニ於ケル近衛內閣總理大臣訓示

(昭和十六年四月八日)

本日諸君ノ會同ニ當リ内外ノ實狀ヲ具ニ傳フルト共ニ、施政ノ大綱ニ付親シク説明ヲ行ヒ、以テ地方行政ノ運用ニ遺憾ナキヲ期シ度イト思フノデアリマス。

日獨伊三國條約締結ニ關シテハ、前回ノ地方長官會議ニ於テモ説明シタ所デアリマスガ、其ノ後歐洲ノ戰亂ハ益々深刻化シ、世界ノ情勢ハ其ノ趨ク所、豫斷ヲ許サナイノデアリマス。帝國ノ外交ガ、日獨伊三國條約ニ基調ヲ置クコトハ、固ヨリ謂フヲ俟タナイ所デアリマシテ、帝國トシテハ友邦トノ提携ヲ益々固クシ、以テ世界平和ノ一日モ速ニ來ランコトヲ冀フモノデアリマス。茲ニ少シク詳細ニ國際關係ニ就イテ述べ度イト思ヒマス。

現內閣成立當時ノ國際狀勢ハ、歐洲ニ於テハ獨逸ガ軍事上非常ナ優勢ヲ占メテ佛國降服ノ後デアリマスシ、對英作戰モ大ニ進捗スルダラウト云フ時期デアリマシタ。政府トシテハ、歐洲狀勢如何ハ右様デアツテモ、如何ニシテ大東亞共榮圈建設ヲ實現スルカ、其ノ爲ニ日支事變ヲ如何ニ處理スルカト云フコトガ第一ノ關心事デアリマスノデ、此ノ問題ヲ中心トシテ國際狀勢ヲ討究致シタ次第デアリマス。此ノ點デ先ヅ考ヘマシタノハ英米トノ關係デアリマス。明治維新以來經濟上ニハ非常ニ密接ナ關係ヲ

保持シテ居リマス英米ノコトデアリマスカラ、帝國ノ國是デアル大東亞共榮圈建設ガ出來レバ、英米トノ提携ヲヤツテ行ク方ガ經濟上ノ困難モ少クシテ行クコトガ出來ルト考ヘマシテ、其ノ方面ハ篤ト研究致シマシタ。然ルニ英米ノ主張ハ、東亞特ニ日支事變ノ解決ハ九國條約ノ基礎ノ上ニナサルベク、若シ九國條約ガ適當デナケレバ、其レニ代ルニ類似ノ條約ヲ締結シ様ト云フノガ根本ノ考ヘ方デアリマス。此ノ點ハ事變以來英米側トノ接觸ニヨリ明瞭デアル計リテナク、米國ヨリハ公式ノ通告モアツタノデアリマス。併シ帝國トシテ九國條約ヲ基礎トスルコトハ不可能デアルコトハ勿論デアリマスガ、然ラバトテ之ニ代ルニ、滿洲事變以來實行シテ來タ我ガ大陸政策ヲ殆ンド全部放棄スルコトニナル様ナ國際條約ヲ締結スルコトハ、到底承認出來ナイノデアリマス。世間デハ、英米ノ在支權益ノ問題ヲ解決スレバ、國交調節ガ出來ルデハ無イカナドト云フ風ニ考ヘテ居ル人モアリマスガ、英米ノ主張ハ、在支權益ヤ懸案解決デ満足スル様ナソシナ生易シイ問題デアリマセン、帝國ノ大陸政策ヲ放棄スルカシナイカノ問題ガ根本ナノデアリマス。帝國政府トシテハ、英米ノ主張ガ右ノ様デアルコトヲ承知シマシタノデ、英米側デ支那問題ニ關シ其ノ見方ヲ變更シナイ限り、兩國トノ國交調節ハ非常ナ難事デアルト云フ結論ニ達シタノデアリマス。

而シテ、帝國將來ノ生命デアル大東亞共榮圈建設ト云フ問題ニ付キマシテ、獨伊兩國ハ日本ノ指導權

ヲ認メルト云フコトガ明瞭ニナリマシタノデ、此ノ點カラ獨伊ト共ニ進ム外無イト云フコトニナツタノ  
デアリマス。尙國際政局全般カラ考ヘマシテモ、英米ハ現狀維持ガ國策デアリマス。之ハ所謂「持テル  
國」トシテハ其ノ狀態ヲ繼續シタイト考ヘテ居ルノデ英米トシテハ當然カモ知レマセンガ、帝國トシテ  
ハ其レデハ將來ノ發展ガ出來ナイト云フ大キナ政策ノ問題デアリマスノデ、國際的ニ見、且帝國ノ國是  
カラ見マシテ到底英米ト歩調ヲ共ニスルコトハ極メテ困難デアル、獨伊ト提携シテ行クヨリ致シ方無  
イト云フコトノ見極メガ付キマシタノデ、日獨伊三國同盟ト云フコトニ決心シタ次第デアリマス。其ノ  
結果經濟上ニハ多大ノ困難ノアルコトハ萬々承知シテ居リマスガ、此ノ困難ハ國民ガ眞ニ一致スレバ數  
年ノ内ニハ克服シ得ラレナイ性質ノモノデナイニ反シマシテ、大東亞共榮圈ノ建設乃至我が大陸政策ノ  
放棄ハ國家百年ノ大計ヲ放棄スルコトニナリ、吾々トシマシテハ到底承認出來無イコトデアリマス。加  
之、帝國ト致シマシテハ單ニ自國ノ利害打算ニ止マラズ、人類ノ災厄防止ト世界平和ノ回復ヲモ願慮ス  
ベキデアリマシテ、此ノ點カラ見マシテモ日獨伊三國條約ニヨルノガ最モ適當ナモノデアルト確信シマ  
シタノデ、政府モ其ノ決心ヲシタ次第デアリマス。

之ガ九月二十七日ニ締結サレマシタ日獨伊三國同盟條約ノ由來ト理由デアリマス。此ノ理由ト事實ガ繼  
續致シマス間ハ、我國外交ノ基調ハ日獨伊三國條約ニ置ク以外方法ガ無イト云フコトヲ充分ニ御承知セ

ラレタイノデアリマス。

日獨伊三國條約成立ノ結果、歐洲戰爭ト支那事變ハ不可分ノ關係ニ立ツニ至リ、英米兩國ハ、帝國ヲ準敵國ト見做シ、從來ノ援蔣政策ヲ強化シテ帝國ヲ牽制スルト共ニ、我方ニ不利ナル幾多ノ措置ヲ採ツテ居リ其ノ傾向ハ漸次強化サレツツアル現状デアリマス。

英米兩國ハ、各種ノ反日政策ヲ實施シテ居リマスガ、獨逸ノ脅威ニ直面シテ居ル關係上、目下ノ處何レモ帝國トノ國交破綻ニ至ルコトヲ好マズ、我國ヲ最後ノ關頭ニ驅ツテ不測ノ事端ヲ醸スコトハ、努メテ之ヲ回避シテ居ル様子デ、米國及蘭印ガ今猶相當量ノ石油ヲ、又馬來及蘭印ガ、我所用量程度ノ錫及ゴムノ對日輸出ヲ認メテ居ルガ如キハ是ヲ反映スルモノト思考サレマス。

三國條約ヲ締結シマシタガ、其ノ效果ヲ充分發揮スル爲ニハ、日蘇國交調整ヲ必要トスルノデアリマシテ、此ノ爲、昨秋建川大使ヲ派遣シ、目下折角國交調整ニ當ラシメテ居リマス。併シナガラ蘇聯ハ依然トシテ、西ニ於テハ英獨死闘ノ結果、兩國ヲ衰微ニ導キ、東ニ於テハ日支紛爭ヲ遷延セシメテ、日本ヲ疲弊セシムル方針ヲ急ニ變更スル模様ガアリマセン。且又、獨逸ノ蘇聯ニ對スル壓力ヲ利用シ、國交調整ヲ促進スルト云フ案モ、獨逸ガ對英決戰ヲ控ヘテ居ル關係モアリ、過大ノ期待ヲ掛ケ得ヌ狀態デアリマスガ昨年末北洋漁業ニ關スル暫定協定ガ出來上ツテ以來聊カ好轉ノ形勢ニアルノデアリマス。日蘇

ノ間ニ於テ過去二、三年漁業本條約ガ妥結ニ至ラナカッタ爲臨時の措置トシテ暫定協定ヲ結ンデ間ニ合セツツ本條約締結ニ向ツテ努力シテ來タノデアリマスガ兩國ノ主張ニ、融和困難ナル相違ガアリ、急速妥結見込薄デアリマシタノデ、無條約狀態發生ヲ避クル爲、昨年末モ一昨年通り暫定協定取極方ヲ提議セシメマシタ所、蘇聯ハ一應原則的ニ之ヲ受諾シテ置キナガラ、年末餘日幾何モナキ際、突如トシテ困難ナル條件ヲ持チ出シ一時停頓狀態ニ陥リマシタガ、本年一月二十日暫定取極ガ成立致シマシタ。爾來本條約ノ審議續行中デアリマスガ未ダ妥結ニハ幾分距離ガアリマス。但シ蘇側ハ久シク交渉ノ中絶シテ居ツタ通商協定及貿易協定ノ交渉再開ニ同意シ目下交渉進行中デアリマスガ、此ノ方ハ順調ニ進ミ近ク妥結ヲ見ルコトト思ハレマス。此ノ外ニハ調整ヲ要スルコトガ多々アルノデアリマシテ松岡外相ノ莫斯科立チ寄ニ依リ幾分好轉ヲ期待セララルノデアリマスガ相手ガ相手デアリマスカラ我方トシテモ焦慮セズ、既定方針デ進ム考ヘデアリマス。

現内閣對外政策ノ根幹ハ、大東亞共榮圈建設ニアリマスガ、其ノ中心ハ支那事變ノ處理デアリマス、實ハ昨年十月以來適當ナル手段ニ依リ、重慶政權ノ反省ヲ促シ、南京政府トノ合流促進ヲ企圖シタノデアリマスガ、重慶側ガ速ニ誠意アル反應ヲ示サナカッタ爲、右工作ハ打切メ止ムナキニ至リ、遂ニ十二月三十日、既定方針ニ從ヒ、南京政府トノ間ニ、日支基本條約ヲ結ビ、茲ニ同政府ヲ支那ノ中央政府トシ

テ、正式承認スルニ至ツタノデアリマス。

目下ノ處蔣政權ハ、英米ヨリ巨額ノ借款ヲ獲得シ、又英米ノ宣傳ニ乗ゼラレ、我方ノ困難ヲ過當ニ評價シテ居リマスノデ、容易ニ屈服ノ色ヲ示シマセヌ。又蔣ニ於テハ、「ビルマ」ト雲南ヲ結ブ鐵道ノ建設若ハ英米支同盟ヲ劃策シテ居ルヤノ風説モ屢々行ハレテ居リマス。尤モ國共兩黨ノ軋轢乃至物資ノ不足、物價ノ騰貴等重慶内部ニモ、相當深刻ナ困難モアル模様デアリマス。併シ、最近米國ニ於テ武器貸與法ガ成立シ右ニ基イテ蔣援助ヲ一層強化スルト申シテ居リマスカラ蔣政權モ是レニ力ヲ得テ居ル模様デモアリ從ツテ今俄ニ汪精衛トノ合流ニ同意シタリ又崩壞スルガ如キコトモ想像出來マセン、勿論同政權部内ノ對日和平論モ相當有力ナノデアリマスガ、未ダ機ガ熟スルニ至ラヌ模様デアリマス。從ツテ我方トシテハ、現地ニ於ケル各般ノ消耗ヲ出來得ル限り節約シ、長期持久ノ體制ヲ整へ、世界新秩序建設工作ノ一環トシテ、支那事變ノ大局的解決ヲ計ルコトヲ以テ捷徑トスル様ニ思ハレマス。歐米列國ノ援蔣政策ハ、決シテ支那民族ニ對スル同情ニ發足スルノデハナク、日支ヲ衝突セシメ、共倒レニセントスル陰謀ニ由來スルコトハ明瞭デアリマシテ、帝國ハ之等援蔣行爲ノ絶滅ヲ期セネバナリマセン、日蘇國交調整ノ一目的モ、三國條約締結ノ一理由モ、亦茲ニ存スルノデアリマス。

支那事變解決ニ次デ肝要ナコトハ、大東亞共榮圈ノ建設ノ問題デアリマス。南洋ヲ含ム大東亞ノ各民



族ヲシテ、各、其ノ所ヲ得セシメ、歐米ノ帝國主義ノ桎梏ヨリ解放スルコトハ、吾建國ノ理想ニ合致シ、現政府ノ政策デアリマスガ、同時ニ現在ノ如ク英米ノ對日經濟壓迫ガ、逐日激甚ニ赴キツツアル以上ハ、帝國トシテモ、勢ヒ我實力圏内ニ於テ、必須物資ノ不足ヲ補填スル必要ガ生ズルノデアリマシテ、今後歐洲支那ニ於ケル戰爭ガ、共ニ持久戦トナル場合ハ、帝國トシテハ、南方經營ニ依リ、重要物資ノ補給ヲ確保シ、持久態勢ヲ整備スル外、途ハナイノデアリマス。是即チ、過般小林代表ノ後任トシテ、芳澤前外務大臣ヲ蘭印ニ派遣スルト共ニ、東京ニ於テハ、佛印問題ニ付、佛側代表ト目下交渉ヲ重ネテ居ル所以デアリマス。

佛印ニ付キマシテハ、昨年十二月、佛本國竝ニ佛印ヨリ代表ガ着京シマシタノデ、年末カラ數回我方トノ交渉ヲ開始シマシタ。當初我方ヨリ、日本ト佛印トノ經濟關係ハ密接ナルベキニ、從來佛國政府ノ態度ニヨリ、之ガ實現シナカツタノハ遺憾デアルカラ、之ヲ變更スル必要ヲ力説シ、佛國側モ之ヲ諒承シ、次デ米買入問題ノ交渉ニ移リ、大體話ガ纏マリ、其ノ他ノ問題ニ付テモ大體意見ノ一致ヲ見近ク妥結ヲ見ルコトト思ヒマス。而シテ蘭印トノ交渉ハ、芳澤代表ニ於テ折角努力中デアリマスガ、蘭印當局ハ、不相變英米依存デアリマシテ表面誠意ヲ裝ヒナガラ裏面ニ於テハ極メテ冷淡ナ態度ニ出デテ居リマスカラ此ノ方ハ見込ハ少ナイノデアリマシテ我方トシテ慎重ニ前後ノ措置ヲ考ヘル必要ガアルト思ヒマ

ス。

此處テ「タイ」佛印國境紛争調停問題ニツキ一言觸レタイト思ヒマス。「タイ」佛印國境紛争ノ調停ハ新聞  
デ御承知ノ通種々ノ經過ヲ辿リ三月十一日我國ノ努力ガ奏功シ、此ノ結果一九〇四年及一九〇七年ノ失  
地ニ若干ノ條件ヲ附シテ佛側ヨリ「タイ」側ニ返還サルルコトトナリ、目下右ニ關スル條約ノ締結ニツキ  
準備ガ進メラレテ居リ、近ク調印ノ運ビニナル筈デアリマス。今回ノ調停ニ於テ我國ハ何等ノ代償ヲ求  
ムルコトナク、唯佛側ヨリ新國境ニ對スル保障ノ要求ヲ容レタ關係上、佛「タイ」兩者ヲシテ帝國ニ對抗  
スルガ如キ政治經濟軍事上ノ協約乃至了解ヲ第三國ト結バザルコトヲ約セシムルコトト致シマシタ。今  
回ノ成功ハ大東亞共榮圈建設ノ上ニ重大ナル一石ヲ投ジタモノデアリ、是ニ依ツテ我國ノ東亞ニ於ケル  
實力ヲ顯揚シ種々ノ方面ニ好影響ヲ與フルモノト思ヒマス。

巷間所謂南進論ナルモノガ稱ヘラレ、實力行使ヲ可トスルヤノ議論ガ散見致シマスガ、之ハ對蘇關係ノ  
展開、支那事變ノ處理乃至英米ノ對日態度等トモ、關聯スル次第デアリマシテ、支那事變ニ依テ、既ニ  
相當國力ヲ消耗シテ居ル我方トシテハ、成ル可ク武力ヲ行使セズ、友好的商議ニ依リ、所期ノ目的ヲ達  
成スル方針ノ下ニ、折角努力ヲ試ミテ居リマスガ將來情勢ノ變化ニ依リテハ、覺悟ヲシナケレバナラヌ  
コトモアリ得ルノデアリマス。

以上ハ帝國ト列國トノ外交關係ノ概略デアリマスガ、今日ノ時局ハ單ニ我國ト各國トノ關係ノミデハ、律セラレナイノデアリマシテ、世界狀勢ニ支配サレル所ガ甚ダ多イノデアリマス。

此ノ世界狀勢ヲ決定スル要素ハ、現在ノ所一方日支事變ト、他方歐洲ニ於ケル英獨伊戰爭デアリマス。米蘇ノ態度モ此ノ戰爭ノ經過如何ニヨルコトト思ハレマス。日支事變ハ御承知ノ通りデスカラ、歐洲ノ狀勢ヲ説明シマスト、獨逸ハ千萬近イ軍隊ヲ動員シテ、對英作戰ニ中心ヲ置イテ居ル外、北ハ「スカンヂナビヤ」カラ南ハ西班牙、東ハ「バルカン」迄ノ工作ヲヤツテ、歐洲ニ於ケル新秩序建設ニ努力シテ居リマス。目下「バルカン」工作ガ主トナツテ居リ曩ニ「ルーマニヤ」ニ兵ヲ入レ是ヲ三國條約ニ參加セシメ次デ最近「ブルガリヤ」ヲ三國條約ニ參加セシメテ兵ヲ入レ希臘ヲ壓迫スルニ至リマシタガ更ニ最近ハ「ユーゴ」ヲ三國條約ニ參加セシメマシタ其ノ直後「ユーゴ」ニ政變ガ起リマシタガ之ハ反獨分子ノ計畫デアリマシテ其ノ背後ニ英米ガ居ルコトハ兩國政府ノ態度ヲ見テモ明瞭デアリマス。之ニ對シ獨逸ハ相當慎重ナ態度ニ出テ居リマシタガ遂ニ一昨六日兵力ヲ以テ「ユーゴ」侵入ヲ決行スルニ至ツタノデ、當方面ノ狀勢ハ注視シナケレバナラヌコトトナツタノデアリマス。

英國ハ米國ノ援助ニヨリ、獨伊防禦ヲ繼續シテ居リマスガ、然ラバトテ攻勢ニ出ルダケノ用意ハアリマセンカラ、結局軍事上テハ獨逸側ノ勝利ニ歸スルコトト信ジテ居リマス。問題ハ時期デアリマスガ、

此ノ點ハ何人モ豫言出來マセンケレドモ、遠カラズ開展ガアルノデハ無イカト評判サレテ居リマスノガ  
現狀デス。

本年ハ右ノ様ニ、我國ト主要國トノ關係ニ於キマシテモ亦一般國際狀勢カラ見マシテモ、非常ニ重大ナ  
時期デアリマシテ、歐洲ニ於ケル戰爭ノ開展、之ニ伴フ米國ノ態度如何ト云フコトニ依ツテ、我國ノ前  
途ニモ多大ノ影響ヲ示ス如キ、事態ヲ發生スルカモ知レマセン。

米國大統領ハ三選後、對英援助方針ヲ愈々露骨ニ明示シ、懸案トナツテ居リマシタ軍需資材貸與法案  
ガ三月十一日成立シ米國ノ全資源ヲ擧ゲテ英國ヲ援助スルコトトナリマシタ。之ガ進ンデ公然ノ參戰ト  
ナルカ或ハ右態度ガ參戰ト認メラレルカ否カノ問題ガ現實ニナツテ參ルノデアリマス。其ノ結果如何ニ  
依ツテハ、三國同盟條約發動ト云フ重大ナル局面ノ展開ヲ見ル形勢デアリマスノデ、政府ニ於キマシテ  
モ、野村大使ヲシテ、三國同盟ガ帝國外交ノ基調タルコト、大東亞共榮圈建設ハ帝國ノ絶對必要トスル  
コト竝ニ米國ガ是ヲ理解シテ歐洲及「アジア」ニ對シ進ンデ攻撃ヲ加ヘザル限り、太平洋ノ平和維持ニ全  
力ヲ盡ス方針デアルコトヲ、米國要路ニ説明セシムル考ヘデアリマス。政府ト致シマシテハ、右ノ如ク  
主要國政府トハ、個別的ニ、又國際的ニハ全般ニ亘リ、我方ヨリ見タ萬全ノ方策ヲ講ジテ居リマスガ、  
今申シマシタ様ニ時局ノ決定ニハ帝國ノ努力如何ニ拘ラズ、防止シ得ナイ世界ノ大勢ガアリマスノデ、

他國ノ態度如何ニヨリマシテハ、希望スルトセザルトニ不拘重大ナル事態ガ發生シ得ルト云フノガ、現在ノ國際狀勢デアリマシテ、我國トシテハ、開國以來ノ難局ニ在ルコトヲ良ク諒解セラレ度イ次第デアリマス。

最近松岡外相ガ渡歐致シマシタノモ盟邦獨伊兩國ノ首腦者ト隔意ナキ意見ノ交換ヲ行ヒ右ノ如キ事態ニ對スル我對策ニツキ萬遺算ナキヲ期スルコトヲ主タル目的トシタモノデアリマス。

斯ノ如キ國際事情ニ依リマシテ帝國ノ戰時經濟ノ運營ハ昨年後半期ニ至ツテ著シク其ノ困難ノ度ヲ加ヘルニ至ツタノデアリマス。此ノ實狀竝ニ對策ニ就キマシテハ、所管大臣ヨリ詳細ニ述べラレルコトト思ヒマスガ、次ニ其ノ大綱ニ就イテ申述べルコトト致シマス。

從來我國ハ、英米兩國トノ經濟關係極メテ密接デアリマシテ、我輸出貿易ノ大部分ハ兩國ニ向ケラレ、又我軍需物資ノ多クハ之ヲ兩國ヨリ入手シ來ツタノデアリマス。

然ルニ昨年中ニ於テハ、國際情勢ノ推移ニ伴ヒ、兩國ノ我國ニ對スル態度著シク變化シ、就中日獨伊同盟締結ヲ契機トシテ其ノ敵性的態度ハ俄ニ露骨化シ、重要物資ノ對日輸出ニ對シテ、凡ユル制限ヲ加ヘ、殊ニ軍需用資材ニ付テハ殆ンド禁絶的措置ヲ講ジ、米國ハ屑鐵竝ニ航空用高級揮發油等ニ付テハ、既ニ事實上之ガ輸出ヲ禁止シ、其ノ他ノ物資ニ付テモ、各種ノ輸出制限ヲ實施シ、何時之ガ禁止ノ舉ニ

出ヅルヤモ知レヌ状態デアリマス。

從ツテ今後我國ノ戰時經濟ハ、英米兩國依存ヲ完全ニ脱却シテ、之ヲ運營セザルベカラザル事態ニ立到ツタノデアリマスガ、十五年度當初物資動員計畫ニ於テハ、輸入物資總額約二十六億圓中、兩國及其ノ屬領ヨリノ物資輸入、二十億圓ニ近イモノヲ計上致シテ居ツタ様ナ狀況デアリマス。

然ルニ一方ニ於テハ、過般ノ外交轉換ニ伴ヒ、我國ハ萬一ノ場合ニ處スル爲、充分ノ準備ヲ整へ、殊ニ海軍ヲ中心トシテ應急戰備ノ急速ナル充足ヲ必要トスルニ到リマシタ。

斯クノ如キ情勢ニ對處スル爲、十五年度物資動員計畫ニ對シ、根本的變改ヲ加フルト共ニ、生産力擴充計畫ニ付テモ、思ヒ切ツタ再檢討ヲ加フルノ必要ヲ生ジ、又其ノ結果トシテ一般官需並ニ民需用物資ニ對シテモ一段ト壓縮ヲ強化スルノ已ムナキニ到ツタノデアリマス。

政府トシマシテハ、既ニ昨年來國際情勢ノ推移ニ伴ヒ、物資取得ノ困難ナル事態ノ發生ヲ慮リ、取敢ヘズ應急措置トシテ將來入手困難ニ陥ルベキ重要物資ノ急速輸入ヲ實施致シタノデアリマス。即チ昨年六月以來八回ニ亘リ、總額約六億三千萬圓ヲ以テ、主トシテ屑鐵、航空用揮發油、電氣銅、非鐵金屬等ノ輸入ヲ行ツタノデアリマス。又英米兩國以外、殊ニ獨伊及東南洋各地ニ對シテ貿易ノ促進ヲ圖リ、重要物資ノ獲得ニ努メテ參ツタノデアリマス。

佛印ニ對シテハ、軍事上、政治上ノ諸工作ト併行シテ、經濟上ノ交渉ヲ進メ、現在我國ニ於テ不足ヲ告  
ゲツツアル米、ゴム、錫、其ノ他ノ必要物資ノ獲得ニ努ムルト共ニ、蘭印ニ對シテモ石油ヲ中心トシ  
テ、之ガ購入竝ニ資源獲得ノ爲交渉ヲ重ネ、既ニ契約ノ成立ヲ見タ分モ相當數量ニ上ツテ居ルノデアリ  
マス。

又對獨貿易ノ如キモ輸送路ノ困難等ニ拘ラズ、相當ノ進捗ヲ示シ、前年度ニ比シ増加ノ趨勢顯著ナルモ  
ノガアリマス。

尙此ノ機會ニ於テ、第三國貿易狀況ニ付テ説明シマス、昭和十五年中ノ對第三國輸出貿易ハ、歐洲戰  
亂ノ擴大ニ伴フ各種ノ障害加重セラレマシタルニ拘ラズ、各方面ノ努力ニ依リマシテ、略々、昭和十四  
年ト同額、即チ十八億二千餘萬圓ニ達シ年度當初ノ豫定ニ比スレバ、相當著シイ減少デアリマス。然  
ルニ、他面輸入ニ於キマシテハ國際情勢ノ推移ニ鑑ミ、國防上絕對必要トスル物資ニシテ、今後輸入困  
難ヲ豫想セララルモノニ付テハ、速急輸入ヲ行フ事ヲ適切ト認メ、前ニ申述ベタ如キ大量ノ繰上輸入ヲ  
行ヒマシタノデ、總額約二十八億圓ト相成リ、貿易尻ハ約十億圓近イ入超ヲ示シテ居リマス。併シ幸ニ  
十四年下季ノ輸出貿易ノ活況ニ依リマシテ、爲替資金ニ相當餘裕ヲ生ジテ居リマシタ事ト、又貿易外  
收支ガ海運收入ノ増加等ニ依リマシテ、豫想ニ比シ相當改善セラレ、又新産金銀及回收金銀ノ額モ相當

ニ上リマシタノデ、右ノ決済ハ此等ノ資金ト在外資金ノ運用ニヨツテ、大體賄ヒ得正貨準備ハ之ヲ確保致シテ居ル狀況デアリマス。

次ニ昭和十六年度ノ豫想ヲ申シマス、輸出貿易ニ於キマシテハ獨逸並ニ蘭印、佛印等東亞共榮圈地域ニ對スル輸出ノ更ニ一段ノ増進ガ期待セラレマスガ、他方英米及其ノ屬領ニ於ケル輸入制限ノ強化並ニ輸送ノ困難ニ依リ、其ノ他ノ各地域ニ對シテハ相當著シイ減少ガ豫想セラレマスノデ、昨年ノ実績ニ比シ一應一割程度ノ減少アルモノト豫想シテ居ル次第デアリマス。隨ヒマシテ昭和十六年度ニ於ケル第三國ヨリノ輸入力ハ、昨年ニ比シ著シイ減少トナルハ止ムヲ得ザル情勢デアリマス。

尙十六年度ニ於キマシテハ、國際情勢ニ鑑ミ極力輸入先ノ轉換ヲ策シ、主要物資ハ能フ限り英米及其ノ屬領以外ノ地域カラ之ヲ輸入スル事ト致シ、在來輸入總額中英米關係ノ占ムル割合七割五分程度デアリマシタモノヲ四割以下ニ引下グル様計畫立案中デアリマス。右ニ申シマシタ所ハ國際情勢ガ大體今日ノ現状ニ止マルモノトシテノ豫想デアリマシテ、固ヨリ國際情勢ノ更ニ惡化スル場合ニ於キマシテハ、貿易モ一段ト困難ヲ加フル事ヲ豫想致サネバナリマセン。又之ニ應ズル用意モ致シテ居ルノデアリマスガ、右ニ申シ述ベマシタ通り、既ニ十六年度ニ於テハ總額ニ於テ英米依存關係ハ著シク減少セシメテ居リ、又輸入品ノ内容モ主要軍需物資ニ付テハ英米兩國カラハ輸入杜絶ニ近イモノトシテ計畫ヲ樹テテ居



ル事ヲ承知セラレ度イノデアリマス。

右ノ如キ事情ニ鑑ミマシテ昨年末ニ到リ物資動員計畫並ニ生産力擴充計畫ニ根本的改變ヲ加ヘ新情勢ニ對應スル對南方殊ニ海軍ノ應急戰備ヲ充足スルト共ニ將來ニ亘ル我國生産力ノ維持增強ヲ確保スベキ方策ヲ樹立致シタノデアリマス。

其ノ眼目トスル處ハ

- (一) 緊急ノ事態ニ即應シ萬一ニ備フル爲出師準備資材ノ迅速ナル増給
- (二) 自給自足ヲ基礎トスル我國生産力ノ將來ニ亘ル維持增強
- (三) 爾餘ノ需給ニ對シテハ更ニ一層ノ壓縮ヲ加フルモ之ガ爲國民經濟ノ維持運營ニ支障ナカラシムル爲凡ユル方途ヲ講ズルコトノ三點デアリマシテ、之ガ實行ニ當リマシテハ徹底的重點主義ニ基キ各種産業ノ基礎タル鐵鋼、石炭等ニ主力ヲ集中シ、之等ニ付テモ既存設備ノ補強並ニ原則トシテ、本年度末迄ニ完成スルモノニ重點ヲ注イデ、之ヲ出來得ル限り高度ニ活用スルニ努ムルコトト致シタノデアリマス。

就中最モ重要ナル鐵鋼ニ付テハ從來年間約二百萬噸ノ屑鐵ヲ輸入使用シ、之ニ依ツテ四百數十萬噸ノ鋼材ヲ生産シ來ツタノデアリマスガ、今回ノ屑鐵輸入杜絶ニ伴ヒ、我國ノ鐵鋼業ハ一大難局ニ際會致シタ

ノデアリマス。然シ乍ラ幸ニシテ従前ヨリ官民一致ノ努力ニ依リ、外國屑鐵依存脱却ノ準備ハ相當ノ進捗ヲ示シ、又鐵鋼資源ニ付テモ滿洲、支那殊ニ最近海南島ニ於ケル富鐵ノ發見等ニヨリ、充分ノ資源ヲ我經濟圈内ニ於テ確保シ得ルノ見込ヲ有スルニ至リマシタ。

即チ我經濟圈内ニ於ケル資源ヲ基礎トシ、諸般ノ障害ヲ除去シ、現有ノ設備ヲ完全ニ運轉スルニ於テハ、假令外國屑鐵ノ輸入無シト雖、將來鋼材六、七百萬噸ノ生産ハ必ズシモ困難ニ非ザル次第デアリマス。之ガ爲ニハ銑鑛一貫作業ヲ中軸トスル製鐵工場ノ整備、鑛山設備ノ擴充ハ勿論、日滿支ニ亘ル大規模ノ原料石炭山ノ開發、鐵鑛石及石炭ノ運搬ニ必要ナル船舶ノ急速建造等ノ事業ヲ遂行スルコトハ焦眉ノ急務デアリマシテ此ノ方針ヲ進ンデ居ル次第デアリマス。此等ノ事業遂行ノ爲ニハ何レモ多額ノ資材ヲ必要トスルノデアリマス。之ニ前述致シマシタ軍需充足ニ必要ナル資材ヲ加フル時ハ、之等ニ要スル鐵鋼材ノミニ付テモ勢相當ノ額ニ達セザルヲ得ナイノデアリマス。此ノ如キハ外巨額ノ屑鐵輸入ガ停止セラレ、内ニ於テモ銑鑛一貫作業等ニ依ル設備ノ完成途上ニ在ル今日、需給ノ調整上容易ナラヌ困難ヲ伴フモノト存セラレマス。之ニ對スルガ爲第一ニ官需及民需ニ於テ全體トシテ鐵鋼材ノ使用ヲ極力抑制スルコトトシ、重工業、交通等特ニ重要ナル部門ニ付キマシテモ、重點主義ノ適用ニ依リ、忍ビ得ラルル限度迄節約ヲ加フルコトニ、更ニ一段ノ注意ヲ致サネバナラヌト考ヘラレマス。尙斯クノ如キ事情デ

アリマスノデ、此ノ際鋼材供給ノ増加ヲ圖ルベキ緊急ノ措置トシテ、國內鐵鋼類ノ特別回收ヲ實施シ、之ガ利用ヲ圖ルコトト致シテ居ルノデアリマシテ其ノ成否如何ハ今後ノ經濟運営ニ對シ重大ナル影響ヲ及ボス所デアリマス。

石炭ニ付キマシテハ各方面異常ノ努力ニ依リマシテ資材、勞力等ニ關スル多大ノ困難ニモ拘ラズ、逐年相當ノ増産ヲ示シツツアリマス。

十五年度ニ於テハ、各方面ノ需要増加ニ伴ヒ内外地出炭ヲ約七千四百萬噸ト豫定致シマシタ處、樺太、臺灣ハ大體豫定ニ近ク參ツテ居マスガ、内地及朝鮮ノ出炭思ハシカラズ、之ガ爲、石炭ノ大需要者デアル製鐵、發電等ノ諸部門ニ深刻ナル影響ヲ及ボシ、年末年始ニ於テハ、此ノ際重視ヲ要スル熔鑛爐ノ運轉ニ危惧ノ念ヲ與フルニ至ツタ次第デアリマス。之ガ爲各種對策ヲ講ジ約百五十萬噸ノ減産ニ止ムルコトヲ得マシタガ今後特ニ困難ヲ感ズルモノハ勞力ノ補給デアラウト思ヒマス。從ツテ將來モ國內勞働者ノ募集及朝鮮勞働者ノ導入等ニ付、特別ノ考慮ヲ拂フノ必要ガアルト思マス。

尙我國ニ於テ、最モ不足ヲ告ゲツツアル液體燃料ニ付テハ、從來全消費量ノ約九割ヲ輸入ニ仰ギ、同約八割五分ヲ米國ヨリ輸入致シテ居ツタノデアリマス。然ルニ、米國ノ禁輸措置ニ依リ航空用高級揮發油等ノ入手ハ全ク不可能トナリ、今後更ニ其ノ他ノモノニ付テモ同様ノ措置ニ出ヅルコトガ豫想ニ難

クナイ状態デアリマス。

依ツテ我國トシテハ、一方人造石油製造設備中比較的短期間内ニ完成ノ見込アルモノニ主力ヲ集中スルト共ニ、東亞共榮圈内殊ニ蘭印ヨリ出來得ル限り多量ノ石油ヲ入手スル爲、昨年來各般ノ努力ヲ致シ、今日年額二百數十萬噸ノ輸入ヲ確保スルコトトナリマシタノデ、現在ノ國際狀勢ニシテ更ニ急變セザル限り、一應我石油需要ニ關シテ重大ナル不安ノ存セザル状態デアリマス。然シ乍ラ固ヨリ國際狀勢ノ前途ハ逆賭シ難キモノガアリマスノデ、一方凡ユル努力ヲ致シテ銳意之ガ供給ノ増加ヲ圖ルト共ニ、

他方國內消費ヲ最少限度ニ壓縮シ、以テ國內保有量ノ增強ニ全力ヲ盡シテ居ル次第デアリマス。尙本年我國經濟ノ運営上極メテ重大ナル問題ハ、食糧問題デアリマス。之ニ付テハ朝鮮ノ米作ハ、幸ニ昨年ハ一昨年ニ比シ良好デアリマシタガ、内地ハ收穫高ハ約六千八十七萬石デ其ノ成績思ハシカラズ、之ガ爲總體ニ於テ約一千萬石ヲ下ラザル供給ノ不足ヲ告グル状態ハ、前年ト全ク異ラザルモノガアリマス。之ニ對スル處置トシテハ米穀ノ國家管理ヲ強化スルト共ニ、配給統制並ニ消費規正ヲ一段ト強化シ、且相當數量ノ外米ヲ輸入致サネバナラヌ次第デアリマス。

而モ之ガ爲巨額ノ外貨資金ヲ使用スルコトハ、極力之ヲ避ケル必要ガアリマスノデ、政府ハ主力ヲ佛印及泰方面ニ注ギ、必要數量ノ輸入ノ確保ヲ圖ルト共ニ之ガ支拂方法トシテハ、出來得ル限りクレディ

ツト又ハ物資ニ依ル支拂ノ實施ニ努メツツアリマスガ、先般ノ日佛會商ニ於テ、只今迄ノ處、佛印ヨリ約五百萬石ノ對日供給ノ申合ヲ了シ、其ノ支拂方法ニ付テモ短期クレディットノ方法ニ依ルコトトナリマシタ。尙此ノ外最近迄ニ泰及ビルマヨリ三百數十萬石ノ買付ヲ了シ外米確保ニ付遺憾ナキヲ期シタノデアリマス。斯クノ如ク國ノ内外ニ亘リ米穀ノ管理ニ銳意努力中デアリマスガ、幸ニ生産者及消費者共ニ米穀事情ニ對スル理解モ漸次深マリ、其ノ供出ニ於テモ豫期以上ノ效果ヲ收メツツアルト共ニ、消費ノ規正ニ付テモ主要都市府縣ニ付米穀配給ノ通帳制度ヲ實施スルコトト致シマシタ。從ツテ現在ノ狀態ニ於テハ、需給關係ニ不安ハナイノデアリマスガ、今後共ニ米穀ニ付テハ不斷ノ注意ト努力トヲ拂ヒ萬全ノ方策ヲ講ズル覺悟デアリマスカラ、此ノ點特ニ承知セラレタイノデアリマス。此ノ食糧問題ニ付テハ特ニ一昨年來、諸君ニ於カレテハ非常ナル御骨折ヲ願ツタコトデアリマシテ此ノ機會ニ今日迄ノ諸君ノ御勞苦ニ對シ衷心感謝ノ意ヲ表スルト共ニ、我國ニ於ケル食糧問題ノ重要性ガ今後益々深刻ナルモノアルベキヲ想到シマスルトキ諸君ノ一段ノ御奮闘ヲ切望スル次第デアリマス。

次ニ最近經濟統制ノ進展ニ伴ヒ、各方面ニ職業轉換ヲ餘儀ナクセラルルモノノ相當ニ存スルノハ、事實デアリマスガ、戰備擴充生産力擴充等ノ爲勞務ノ需要ハ、著シク増加致シテ居リマスノデ、全般的ニ觀レバ尙相當ノ勞務不足ノ狀態デアリマス。依ツテ政府ニ於テモ一方轉業ノ圓滑ナル推移ヲ圖ル爲、必

要ナル處置ヲ採ルト共ニ、勞務充足ニ支障ナカラシムル様、凡ユル方途ヲ講ズル心算デアリマス。

第七十六回帝國議會ニ於テ、政府ハ多數ノ法律案ト多額ニ上ル豫算案ヲ提出致シマシタガ、貴衆兩院共時局ニ對スル深キ認識ノ下ニ、非常ナ協力ヲ示サレ、短時日ノ間ニ悉ク成立ヲ見ルニ至リマシタコトハ、邦家ノ爲洵ニ喜バシク思フノデアリマス。

大政翼贊運動ハ昨秋大政翼贊會ノ發足以來、諸君ノ熱心ナル協力ヲ得テ、着々其ノ實ヲ舉ゲテ來タノデアリマシテ、全國到ル處ニ眞劍ナル運動ガ展開サレテ居ルコトハ喜バシキ次第デアリマス。政府ハ大政翼贊會ノ組織ニ關シ、其ノ後ノ經驗ニ鑑ミ大ニ改革ヲ行ハシメ、更始一新シテ更ニ力強ク發足セシムルコトト致シタノデアリマス。本運動ノ本質ニ就キマシテハ、已ニ昨年以來屢々聲明シタ次第デアリマスガ、元來大政翼贊運動ハ、萬民翼贊ノ國民組織ヲ確立セントスル運動デアリマシテ、其ノ根本精神ハ萬民ガ各自ノ職域ニ於テ臣道ヲ實踐スルニ在ルノデアリマス。本運動竝ニ大政翼贊會ニ就イテ、色々ト論ズル者モアリマシタガ、根本精神ニ就イテハ、全國民ニ一人ノ異論モナカルベキコトヲ政府ハ確ク信ズルモノデアリマス。

政府ハ今回ノ改組ヲ機會ニ、本運動ノ展開ヲ一段ト助成セントスルモノデアリマシテ、今回ノ會議中大政翼贊會ノ運動發展ニ付、關係當局ト諸君ト充分懇談セラルルノ機會アルコトト存ジマスガ、今

ヤ國內外ノ情勢ハ眞ニ一億一心ヲ必要トスル秋デアリマス。大政翼賛運動ハ緊迫セル現下内外ノ實情ニ促ガサレテ發生展開シ來ツタモノデアリ、恐ラクハ此ノ運動ノ實效的ナル展開ナクシテ、今日ノ時艱克服ノ難事業ハ到底之ヲ遂グルコト能ハズト信ズルモノデアリマシテ、今後政府ハ不退轉ノ決意ヲ以テ大政翼賛運動ノ育成發展ニ力ヲ致ス所存デアリマス。諸君ニ於テモ克ク本運動ノ根本精神ヲ尊重シテ、一層ノ協力ヲ致サレンコトヲ切望スル次第デアリマス。

以上申述ベマシタル如ク、現下内外ノ情勢ハ、正ニ一大難關ニ際會致シテ居ルノデアリマス。此ノ非常時局ニ對スル政府ノ施策ニ關シマシテハ、第七十六回帝國議會ニ於ケル施政方針演說ニ於テモ、既ニ述ベタ所デアリマスガ、政府ハ固キ信念ノ下ニ有ラン限りノ力ヲ盡シテ施策ヲ遂行シ以テ難局ヲ打開セシコトヲ期スルモノデアリマス。今日ノ時局ニ於テ、國內體制ヲ今迄ノママニシテ置イテ、政治機構ヲ經營シテ行クト云フコトヲ以テハ、國防國家體制ノ確立ナドハ思ヒモ依ラヌコトデアリマシテ、今日庶政百班ニ亘リ根本的刷新ヲ行フノ必要ガ益、深マリツツアルコトヲ痛感スルノデアリマス。而シテ特ニ力説シ度イコトハ、其ノ新シキ體制ニ移ル爲ノ心構、即チ新體制ノ基本精神ハ、飽ク迄モ日本精神デナケレバナライノデアリマス。外國ノ經濟統制ノ方式ヲ採用スルニ當テモ、之等制度ノ背景ヲ爲ス其ノ國々ノ思想ヲ、無批判ニ採り入レル様ナ結果ニ陥ルコトハ、嚴ニ之ヲ戒メネバナラヌト思ヒマス。而シ

テ今日最大ノ急務ハ革新デアルトカ、現状維持デアルトカ、御互ニ云ヒ争フコトヲ一日モ早ク切り上ゲテ、如何ナル體制ガ、今日ノ日本ノ當面スル難局ヲ打開スルニ最モ適當ナル新體制デアるかト云フ事ヲ私心ヲ離レ、行掛ヲ捨テテ眞劍ニ考ヘ、ソシテ之ヲ速ニ實現スル事デアルト思ヒマス。

尙此ノ際特ニ一言申シ度イコトハ、近時經濟其ノ他各分野ニ於テ、統制ノ方式ヲ採用スルノ已ムナキニ至リ、之ガ爲官廳ノ擔當スベキ部面ガ、極メテ廣汎トナリ、且深化シテ參ツタノデアリマスガ、斯カ  
ル際ニ特ニ反省セネバナラヌコトハ、官吏ノ取扱ガ時ニ懇切丁寧ヲ缺クコトナキカ、又能率ノ上ニ於テ十分ナラザルモノナキカト云フコトデアリマス。

官ニ在ル者ハ須ク常ニ其ノ任務ノ益、重大性ヲ加ヘツツアル事ニ思フ致シ、一層戒慎自重シテ、民衆ノ立場ニ立ツテ考ヘルコトヲ忘レルコトナク、先ヅ自ラ深く反省シ、然ル後ニ於テ克ク教ヘ、克ク導イテ、以テ官民一致協力、難局打開ニ邁進センコトヲ期スベク、苟モ官僚獨善ニ陥ルガ如キコトナキ様、深く期スルトコロガアラネバナリマセン。

此ノ時局ニ當面シ、聖上陛下日夜ノ御軫念ト日々ノ御精勵ハ誠ニ恐懼感激ノ至リデアリマシテ、私共ハ唯々如何ニシテ大御心ヲ安ンジ奉ルベキカ、眞ニ焦心苦慮致シテ居ルノデアリマシテ、正ニ死力ヲ盡シテ御奉公申上ゲルノ外無イト考ヘテ居ルノデアリマス。



諸君モ何卒政府ノ意ノ在ル所ヲ體セラレ益々各自ノ業務ノ遂行ニ邁進シ、以テ全國民ヲシテ勇躍時艱突  
破ニ赴クノ態勢ニ就カシムルニ付萬遺憾ナキヲ期セラレシコトヲ切望スル次第デアリマス。

三三

機密

六

閣甲第二三二號

起  
昭和十六年六月二十七日

決  
十六年六月二十七日

施行  
年一月一日

大藏大臣  
外務大臣  
興亞院總裁



書記官



昭和十六年六月二十七日

內閣書記官長

大藏大臣  
外務大臣  
興亞院總裁

宛（各通）

對國民政府借款供與要綱別紙ノ通閣議決定相成候條依命此段及通



機密

對國民政府借款供與要綱

昭和十六年六月二十七日閣議決定

一 供與機關 正金銀行等

二 借受者 中華民國國民政府其ノ他

三 金額 限度日本通貨三億圓トシ差當リ年間三千萬圓乃至五

千萬圓ヲ使用スルコト

四 使用期限 五年

五 使途 中國側ガ軍需資材及其ノ他ノ物資ヲ本邦ヨリ買付奉

クル場合並ニ第三國物資ヲ輸入スル場合ノ輸入決済

資金トシテ使用スルコト

尙使用前其ノ内容ニ付豫メ日本政府ニ協議スルコト

六利 率 使途ニ應ジ別途決定スルコト

七償還期限及方法 使途ニ應ジ別途決定スルコト

八擔 保 中華民國國民政府國債、同政府所有株式、中央儲備

銀行保有外貨等

### 備 考

本邦側供與機關ニ對シ損失補償ヲ必要トスルモノニシテ現行法  
制ニ據リ難キモノニ付テハ次期帝國議會ノ協贊ヲ得タル後本借  
款供與ノ具體的實行ヲ圖ルモノトス

閣第 四八九號

案起

昭和十七年十二月十六日

閣議決定

昭和十七年十二月十七日

施行

昭和

年

月

日

內閣總理大臣



內閣書記官長

Handwritten signature

內閣書記官



外務大臣

Handwritten signature

海軍大臣

Handwritten signature

商工大臣

Handwritten signature

大東亞大臣

Handwritten signature

內務大臣



司法大臣

Handwritten signature

遞信大臣

Handwritten signature

陸軍大臣



大藏大臣

Handwritten signature

文部大臣

Handwritten signature

鐵道大臣

Handwritten signature

陸軍大臣

Handwritten signature

陸軍大臣



農林大臣

Handwritten signature

厚生大臣

Handwritten signature

閣議二封入

別紙 在支敵性國人集團生活ニ關

忍儿件 玆支婚卦國人集團主話二關  
 右閣議二供又

綏軍大臣  
 鐵林大臣  
 鄂生大臣

大蘇大臣  
 文清大臣  
 麟慶大臣

內務大臣  
 寶善大臣  
 蘇壽大臣

外務大臣  
 善祥大臣  
 大興亞大臣

內閣總辦大臣  
 內閣秘書官  
 內閣書寫官

宣統元年五月廿二日  
 宣統元年五月廿二日  
 宣統元年五月廿二日

通牒案

昭和十七年十二月十六日 (十二月十六日付)

内閣書記官長

大東亞大臣宛

在支敵性國人集團生活ニ関スル件  
標記ノ件 本日別紙ノ通閣議決定相  
成候條命ニ依リ通牒ニ及ヒ候



極秘

在支敵性國人集團生活ニ賦スル件

在支敵性國人中現ニ軍ニ於テ抑留セルモノ以外ノモノモ日本側ニ於テ集團生活セシムルコトトシ大東亞省出生機編ニ於テ之ヲ實施スルコトトス

在支敵性國人集團生活ニ聯スル件

說 明

在支敵性國人中現ニ軍ニ於テ抑留セル以外ノモノニ對シテハ移動ノ制限等所要ノ措置ヲ講シ居ルモ概シテ其ノ取扱ハ寬大ナル處支那力作戰地タル關係上敵國人ヲ其ノ儘比較的の自由ニ放置シ置クコトハ種々ノ弊害ヲ伴フ虞レアルヲ以テ之カ防遏ニ關スル軍側ノ要請ニ應シ且在敵性國在住邦人ノ取扱振ニモ照應シ之ヲ集團生活セシムルコト必要ナリト認メラル然ルニ支那ニハ中立國ノ外交官、領事官等ノ外敵國側ノ利益保護國代表者モ駐在シ居ルニ付テハ敵國人取扱振如何ハ敏感ニ敵國ニ於ケル邦人ノ待遇ニ影響スヘク多數ノ在敵國同胞ヲ有スル我國トシテハ此ノ點特ニ注意ヲ加フルヲ要ス、從ツテ集團生活ハ敵國ニ於ケル邦人ノ取扱振ト睨合テ軍側ノ抑留措置ニ併行シ大東亞省出先機關之ヲ擔當スルコト然ルヘシ

内閣法... 11

閣中第五〇五號

案起 昭和十七年十二月

日 閣議決定 昭和十七年十二月二十日 施行

昭和 年 月 日

内閣總理大臣



内閣書記官長

Handwritten signature

内閣書記官



外務大臣

Handwritten signature

海軍大臣

Handwritten signature

商工大臣

Handwritten signature

大東亞大臣

Handwritten signature

内務大臣



司法大臣

Handwritten signature

逓信大臣

Handwritten signature

鈴木國務大臣



大藏大臣

Handwritten signature

文部大臣

Handwritten signature

鐵道大臣

Handwritten signature

安藤國務大臣

Handwritten signature

陸軍大臣



農林大臣

Handwritten signature

厚生大臣

Handwritten signature

別紙小型熔鑄爐建設方針ニ関スル件

右閣議二供久

保解小野政賴獻書卷之八

關東大司 關西大司 關中

大藏大司 文部大司 禮部

兵部大司 刑部大司 工部

大司 大司 大司

大司 大司 大司

大司 大司 大司

大司 大司 大司

大司 大司 大司

通牒案

昭和十七年十二月二十四日

內閣書記官長

各省大臣

(外司文三大臣ヲ除ク)

企畫院總裁

情報局總裁

技術院總裁

宛(各通)

小型熔鑄爐建設方針ニ関スル件

別紙ノ通閣議決定相成候條命ニ依  
リ通牒ニ及ヒ候

殊淋 別紙

計詳 別紙

全畫 別紙

宛(各圖)

各 別紙

内閣書目録

第 五 十 二 回 目 録

通 牒 案

# 極秘

小型熔鑪建設方針ニ關スル件

昭一七一一、二四  
全 院

昭和十八年度ニ於ケル鐵鋼特ニ普通鐵鋼材ノ最少限豫定量（一七  
一三、一〇大本營政府連各會議決定ニヨルモノ）確保策ノ一タル小型  
熔鑪ノ建設ニ關シテハ左記方針ニ依リ速ニ計畫ヲ樹立シ、強力ニ  
之ガ實現ヲ期スルモノトス

## 記

一 昭和十八年度小型熔鑪ニ依ル銑鐵生産目標

北支	一八〇千瓩	
蒙疆	七〇	二九〇千瓩
中支	四〇	
朝鮮		一六〇
北海道		三〇
臺灣		二〇

合計

五〇〇千瓩

尙ホ滿洲ニ付テモ新設ヲ考慮スルコトトス

右ヲ通シ昭和十八年度物動計上額ヲ二五〇千瓩トス

三 建設條件

(一) 技術上確率大ナルコークス依存ノモノニ重點ヲ置キ無煙炭依存ノモノハ之ニ併行シテ進行セシム

(二) 爐ノ能力ハ原則トシテ一基ヲ實産二〇瓩トシ狀況ニ依リ五瓩三五瓩、五〇瓩等トナシ得ルモノトス

(三) 建設所要期間ヲ着手後概シテ四ヶ月以内トス

三 所要資材對策

(一) 鋼材ハ十七年度第四、四半期及十八年度第一、四半期ニ於テ配當シ優先的ニ之ガ現品化ヲ圖ルモノトス

此ノ場合在庫品及重要物資管理營團買上分ノ可及的利用ヲ圖ル



モノトス

(二) 電動機及送風機ハ極力在庫品、仕掛品ノ回收活用ニ努メ其ノ不足分ニ對シテハ陸海軍ノ強力ナル支援ノ下ニ新規製作ヲ期シ、所要發註承認書ハ十七年度第四、四半期ニ於テ之ガ發行ヲ爲スモノトス

(三) 内地既存ノ小型熔鑄爐中遊休又ハ非能率的ナルモノノ轉用移設ノ措置ヲモ講ズルモノトス

(四) 耐火煉瓦ハ可及的限地調辨ヲナスモノトシ、既存能力ノ全幅利用ヲ以テ處理スルモノトス

四 經營者ノ選定

企業院ニ於テ實施擔當官廳ト協議ノ上決定スルモノトス

五 資金

必要ニ應ジ産業設備營團又ハ戰時金融金庫等ヲ積極的ニ活用ス

ルモノトス

六 價 格

此ノ際生産目標ノ確保ヲ強行スル爲、生産者ニ對シ生産原價ヲ保障スルト共ニ、必要ニ應ジ財政的措置ヲ講ズルモノトス

3511-7